

野洲市民病院整備に係る市民懇談会 懇談要旨

- ▶ 平成 30 年 6 月 2 日 午後 2 時～3 時 45 分
- ▶ 野洲市役所第一委員会室
- ▶ 参加者 約 60 人

次 第

1. 開会
2. 市長あいさつ
3. 懇談会
 - (1) 市民病院整備事業の概要等について（市説明）
 - (2) 野洲市民病院 実施設計について（市説明）意見交換

《主な意見等（要旨）》

1. 医療スタッフの不足が考えられる。これから働く看護師などの子育て支援として院内に保育施設や育児室、また、来院者の子どもの一時預かりできるスペースがあればよいと思うが、配慮されているのか。

→市：駅前近隣には幼稚園、保育園があり、そちらの利用も想定できる。また、費用面において保育料を他の病院と比較して下回らない程度で助成できないか制度を検討中である。院内保育施設の設置だけにこだわらず、総合的に医療スタッフの働きやすさを求めて検討している。

一時預かりスペースについては、院内感染等の心配があるので、院外で考えざるをえない。他の病院の状況も聞き、総合的に検討する必要があると考える。

- 交流商業施設に病院利用者専用のスペース（託児スペース）を検討されるつもりはあるか。病院に一番近いところで連携していれば、市民も行きやすくなるのではないか。

→市：野洲市民病院の規模では、費用対効果を考えると困難であると考える。

2. 病院での受付・会計・処方と、一連の流れは待ち時間も長く苦痛である。一元化できないか。

→市：一元化は、ひとつの窓口に集中してしまう可能性もあり難しい。しかし、負担の軽減を図るため、検討を重ねている。受付については、初診と予約の2種類の方法を考えている。初診の方は、多少時間をいただかざるをえず中央窓口へ、予約の方は、直接診療科のブロックに行くこととし、分散した受付が望ましいと考えている。会計については、電子カルテの導入により機械的に計算しスピーディーな対応に努めたい。処方については、会計時に速やかに渡せるよう運用を検討する。予約制をさらにすすめることで待ち時間を減らせるよう努力したい。

3. 2点心配していることがある。1点目は、交通渋滞である。現在、野洲市民病院予定地の西側（市道 下水門支線）は歩行者専用になっているが、JRと相談して車を通すことができ

ないか検討されているのか。現在の交通量と10年後15年後の交通量と想定された検討をされているのか。また、通勤通学の時間帯に現場で実験して検証するべきではないか。2点目は、排水の問題である。最終排水はどうなるのか。

→市：交通渋滞の件について、以前、実際に現場を検証している。下水門支線については、過去に駅前ロータリーを検討した際に、ロータリーはつぼ型が最も安全という意見や車が通ると困るという市民の声もあり、車を通さない前提で進めている。また、中央線の渋滞が課題かと思われるが、国道8号線バイパスが完成すると、一定緩和されると想定している。

また、排水については、設備投資をして浄化し下水に流す。雨水は、免震構造により地下を掘り下げるので、一定溜めることができ、排水の調整が可能である。最終的には、道路側溝等に排水することになるだろうが、詳細については検討の余地があると考えます。

4. 災害時の入院患者の搬出に関して考慮された設計になっているのか。

→市：関係業者と施設基準に基づいた非常時の動線、経路、距離など想定して設計している。

1階のヘルスケアパークは、災害時にはトリアージ対応ができるスペースを視野に入れた設計となっている。

5. 病院の収益を上げるために考えていることはあるか。

→市：まず、新病院効果が一般的にあると考える。また、入院について、現野洲病院は6人の多床室が利用しきれず、平均稼働が60～70%となっているが、野洲市民病院は、より多くの患者を受け入れられる施設とする。したがって、現野洲病院より高い稼働率が見込め、収入も上がる計画となっている。セールスポイントについては、スタッフが決まってくるのもう一段上の検討となる。

→技術が高いことや医師・看護師のレベルが高いことも重要だと思う。教育にも力を入れ、いい病院にしてほしい。

6. ヘルスケアパークについて、一般市民も利用できるかと想定されていると思うが、駅前ロータリー側にL字型に広げようにはできないか。けんこうホールの利用方法にもよるが、開放的な共用スペースを増やすのはどうか。市民が安らげるようなデザインにしてもらえたらいいと思う。

また、優秀な若い医師が来てもらうために、研究ができることが重要だと聞いている。市民病院では研究できる余地があるのか。

→市：ヘルスケアパークについて、1階に必要な諸室をどれだけとるかを考えると、L字にできる面積を確保できない。共用スペースは、ヘルスケアパークと隣接するヘルスケアストリートと一体的な利用を想定して設計している。

けんこうホールの利用については、市民のアイデアもいただきながら考えていきたい。

医師の研究については、野洲市民病院の規模では現実的ではないと考える。

7. 駅前に病院ができることでのイメージがどうなるのか分からないが、野洲のイメージアップの方策は考えているのか。

→市：病院だけでなく、交流商業施設、文化ホール、市民広場など全体で考えている。病院も含めて駅前がよい印象として捉えていただけるよう設計を進めている。

8. 景観を大切に作るなら、屋上に患者や家族が出られるようにするとイメージアップにもなり、よいのではないか。

→市：屋上は、安全面からそのような使い方は考えていない。各病棟から三上山が見えるスペースは確保された設計になっている。

9. 交流商業施設は、具体的にどのような計画がされているのか。

→市：公的な施設として図書館分室や観光案内、子育て機能、駐輪場などの案があり、民間の活用も視野に入れ、現在、企画調整課で検討中である。

10. 計画では産科はない。将来的に産科を標榜する考えはあるのか。

→市：現時点では、機能分化の観点から開業医に任せると整理しているが、まったく想定にないということはない。診療科に関しては、周辺の動向や市民のニーズに合わせて柔軟に考えていく。建築面において、病室を工事によって模様替えができる計画になっているため、対応は可能である。

11. 県内でも建設工事について金銭的なことで不祥事が起こっている。同じことが起こらないか心配している。

→市：これまでの事業と同様に透明かつ適正に行っていくので、安心していただきたい。

12. ヘルスケアパークは病院という観点だけでなく、一般の市民が憩えるようなデザインが重要だと思う。

→市：ヘルスケアパーク、ヘルスケアストリート、市民広場を含めたにぎわい創出のデザインを考えている。

13. 地下には発電機やボイラーなどの設備は置かれるのか。駅前は大雨時、祇王井川が増水するので心配している。

→市：発電機やボイラーはすべて屋上に置く。祇王井川については、順次治水対策をすすめているところである。

14. 環境面の整備だけでなく、医師や看護師の教育をお願いしたい。今の子どもたちが安心できるようなものにしてほしい。

15. 開設時期について、遅れる可能性はあるのか。早くつくってほしいという意見も聞く。

→市：平成31年7月に市立化することは決定している。平成33年の新築移転は“春ごろ”とお示ししている。

16. 患者サポートセンターと後方支援医療について、もう一度説明してほしい。

→市：患者サポートセンターは、入院患者やその家族に対しての相談窓口であり、医療や福祉の制度の紹介をする。後方支援医療は、地域の開業医と入院施設のある病院が連携し支え合う機能である。

4. 閉会

《市長あいさつ》

病院整備については、設計・建築業務だけでなく、必要に応じて駅前、運営のこと等の懇談会等を開催し、ご意見を伺って進めていく。